

チクングニア熱

Chikungunya Fever

チクングニア熱は、トガウイルス科に属するチクングニアウイルスによって引き起こされる感染症で、ウイルスを保有するネッタイシマカやヒトスジシマカなどに刺されることで感染します。

このウイルスの自然宿主はサルであり、サハラ砂漠以南のアフリカ、インド、東南アジアなどで主に発生しています。

今のところ、人間から人間への感染は認められておらず、蚊媒介性疾患のデング熱やウエストナイル熱と症状が類似しているのが特徴です。

病名のチクングニアとは、アフリカの現地語で「前かがみになって歩く」という意味で、痛みを苦しむ患者の様子を表していることから、その名が由来されています。



病原体

- トガウイルス科チクングニアウイルス



チクングニア熱の流行地域

感染経路

- チクングニア熱ウイルスに感染したネッタイシマカ及びヒトスジシマカの蚊に刺されることにより感染します。



ネッタイシマカ



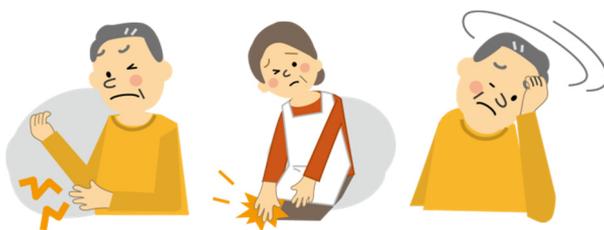
ヒトスジシマカ

潜伏期間

- 2~12日 (通常2~4日)

症状

- 発熱、関節炎、発疹がみられます。関節の痛みは、手首、足首、指、膝、肘、肩などにみられます。結膜炎や神経症状がみられ、出血しやすくなることもあります。



予防法

予防接種も予防薬もありません。

蚊に刺されないようにすることが唯一の予防法です。

- 衣服は長袖、長ズボン（できれば白っぽい色の厚手）などで肌の露出を少なくする。
- 網戸・蚊帳を用いたり、昆虫忌避剤、殺虫剤、蚊取り線香などを使用する。
※ 殺虫剤等で、ガス式・ポンプ式の物は機内への持ち込み制限があります。

